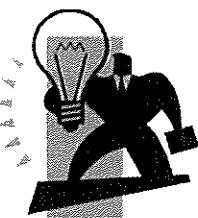


# 分野別評価項目の理解



## 基準3 教育活動

- 3-5 目標の設定
- 3-6 教育方法・評価等
- 3-8 免許・資格取得の指導体制
- 3-9 教員・教員組織

## 柔道整復師養成分野 第三者評価基準のイメージ

### I 専門特化した基準

- 専門技術（A）※自己目標設定・成果を評価する項目  
H22年度文部科学省事業「鍼灸師・柔道整復師の育成プログラムを産学が連携して評価するモデル事業の実践」における「要件1専門技術」に掲げた技術等の獲得指標
- 生涯学習の意欲を醸成する教育
  - 先端柔道整復師から聞く機会のほか、生涯学習プログラムへの在学中の参加などを通じて意欲醸成指導
  - 特徴ある教育活動・学校運営等
  - 目的・育成人材像の実現のための特色ある取組み
- 専門技術（B）/ 知識 ※学習成果を評価する項目  
●認定実技審査における審査項目に対する実技指標  
柔道整復師修習認定制度  
●柔道整復師国家試験合格に対する指標

Should  
質的向上  
のための  
基礎

### 柔道整復師団体の連携による 生涯学習によるキャリア形成を通じた柔道整復師の質向上

- 「柔道整復師研究における医療人開拓」  
柔道整復師研究会
- 「認定柔道整復師制度におけるキャリア形成の観点」  
日本柔道整復師骨医学会
- 「生涯学習単位取得制度」  
日本柔道整復師会

項目・基準の抽出・分類の  
詳細は別紙参照

### II 共通する基準

※ガイドライン準拠を基本

Must  
基準的基準

- II 共通する基準-2 「専門性も含む基準」  
内容により自己目標の設定、成果、標準・要件適合を評価する項目

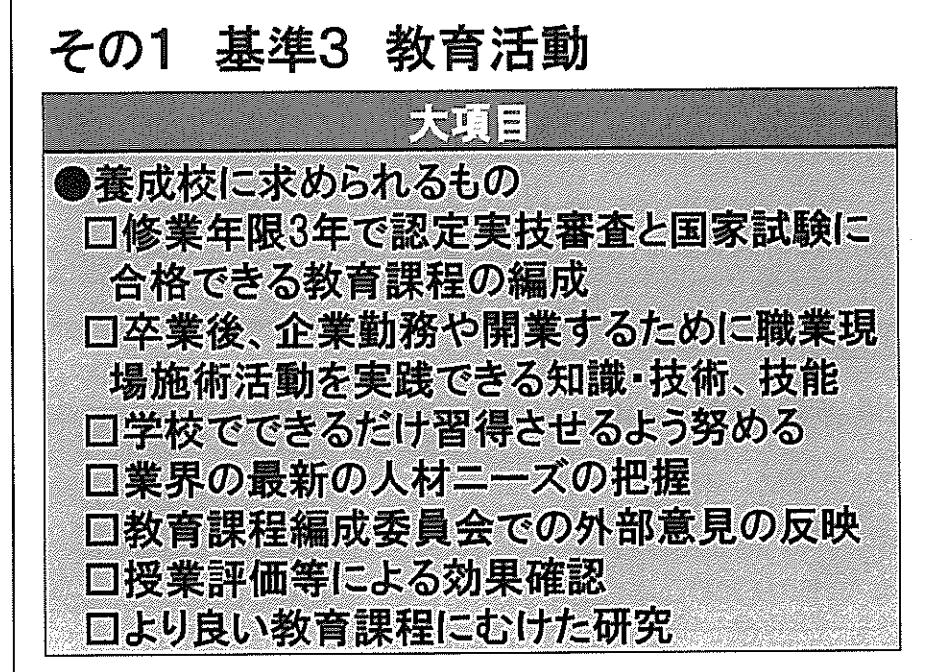
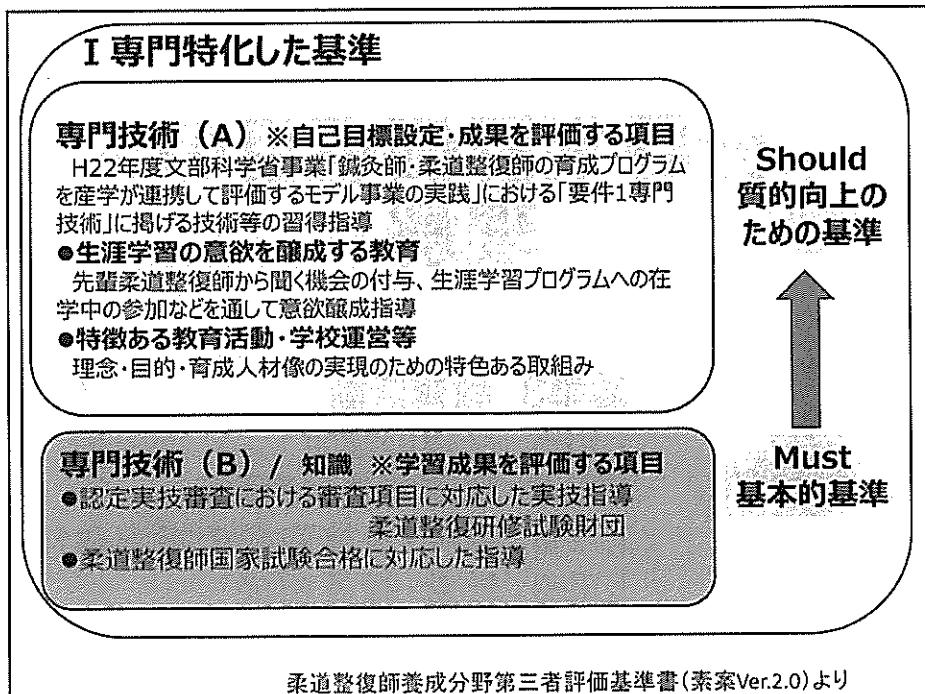
- II 共通する基準-1 ※主に基準・要件適合性を評価する項目

- II 学校運営  
事業計画・運営組織・人事・制度・意思  
決定等  
V 学生支援  
中途退学・相談・保護者との連携等

- VI 教育環境  
実習、演習・防災、安全管理等  
VII 学生募集  
募集活動・選考・学納金会等  
VIII 財務  
IX 法令遵守

- I 構造・目的・人材像  
II 教育活動(目標設定・教育方法・成績評価  
教員及び教員組織等)  
△ (3-9-16主な方針)  
III 学修成果(知識・直指・全要素の評価)  
IV 学生支援(5-21充養生)  
V 教育環境(6-22施設設備)  
△ 社会貢献・地域貢献

柔道整復師養成分野第三者評価基準書(案Ver.2.0)より



## その1 基準3 教育活動

### 大項目

- 成績評価、単位認定基準等の明確な提示
- 教育課程を確實に実行する教員組織
- 資格要件を備えた教員の配置
- 現場に通じた教員の確保と研修体制
- 具体的な教育運営の方法を点検、教育活動が適切かつ効果的に行われているかを確認、評価

## 分野別評価項目の理解

基準3 教育活動	
3-5	目標の設定
3-6	教育方法・評価等
3-8	免許・資格取得の指導体制
3-9	教員・教員組織

★専門技術(A):自己目標設定・成果を評価する項目、質向上基準

★専門技術(B):知識・学修成果を評価する項目、基本的基準

■専門:職業実践専門課程認定要件、分野に必要な基本事項

### 基準3 教育活動

#### 3-5 目標の設定

小項目	評価の視点・指標	分類 観点
9	修業年限3年で柔道整復師国家試験を合格できるように目標設定されているか	目標 専門
10	業界等の人材ニーズに対応した特色ある達成目標を設定しているか	目標 成果

9 修業年限3年で柔道整復師国家試験を合格できるように目標設定されているか

★専門技術(B):知識 学修成果を評価する項目、基本的基準

□分類:目標 □観点:専門

チェック項目

51 修業年限3年で柔道整復師国家試験を合格できる教育到達レベルを明示しているか

52 教育到達レベルは、理念等に適合しているか

53 免許取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか

54 免許取得の指導・支援体制を整備しているか

■ 参照資料 ※は必須

- 学科毎に教育到達レベル・目標等を記載した印刷物
- 到達レベル達成のための教育方法等説明資料
- 免許取得の意義・目標等を明記した文書
- その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

10

業界等の人材ニーズに対応した特色ある達成目標を設定しているか

★専門技術(A):自己目標設定・成果を評価する項目、質向上基準

□分類:目標 ■観点:成果  
□チェック項目

55

教育目標として業界等の人材ニーズに対応した専門技術の達成目標を設定しているか

□教育目標として設定した専門技術(例示)

- |   |   |
|---|---|
| 1 | □柔道整復術:<br>骨折の整復技術・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期措置法などの修得  |
| 2 | □被覆包帯及び固定包帯術:<br>巻軸包帯での被覆包帯が緩まない包帯・腫脹に対応できる包帯の技術習得・固定包帯は骨折等の整復位をいかに保持するかの研究および技術の習得 |
| 3 | □テーピング技術:<br>患部の運動制限・疼痛緩和・血行促進などの研究および技術の習得   |

□教育目標として設定した専門技術(例示)

- |   |   |
|---|---|
| 4 | □後療法:<br>手技療法 軽擦法・強擦法・叩打法などを用いて自然治癒力を活性化させ損傷の早期回復を図る技術の習得。運動療法 全身運動療法と局所運動療法を併用し機能回復と増進を図る技術の習得。物理療法 電気・光・温熱・冷却・音波などの物理的エネルギーを使用して、生体機能の正常化および恒常性維持機能を高める研究および技術の習得 |
|---|---|

教育目標として設定した専門技術(例示)

別技術(ボディナビゲーション体表解剖を含む):

5 外見上の症状では判断できない症状を各種検査法で鑑別する技術の習得。臨床実習にて治療方針を決め、治療し、評価する技術の習得。

医療面接:

6 信頼関係の構築の仕方、主訴、現病歴の確認など

リスク管理:

7 フォルクマン拘縮などの後遺症へのリスク管理。整復・固定・後療法・自己管理などに対する指導管理

参照資料 ※は必須

教育目標(と成果)に関する文書

その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

### 3-6 教育方法・評価等

小項目	評価の視点・指標	分類 観点
11	柔道整復師国家試験受験に必要な教育課程を編成しているか	目標 専門
14	柔道整復師としての社会的責任を果たす上で卒業後も継続した学習が必要であることを認識するための教育を行っているか	目標 質
16	教育方法について、特色ある取組を行っているか	目標 成果

11 柔道整復師国家試験受験に必要な教育課程を編成しているか

★専門技術(B):知識・学修成果を評価する項目、基本的基準

■分類: 目標 ■観点: 専門

□チェック項目:

56 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか

57 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか

58 授業科目の開設において、専門科目・一般科目を適切に配分しているか

59 授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか

チェック項目：

- |    |  |
|----|--|
| 60 | 修了にかかる授業時数・単位数を明示しているか                   |
| 61 | 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか              |
| 62 | 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか    |
| 63 | 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか |
| 64 | 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか  |
| 65 | 職業実践教育の視点で、教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか      |

チェック項目：

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 66 | 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか |
| 67 | 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか  |
| 68 | 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか            |

■参考資料 ※は必須

- 教育課程編成方針文書、規程等
- 教育課程編成経過、検討の記録
- 教育課程、授業科目、時間割、授業計画※
- 演習・実習等の構成、考え方を明記した資料等
- 職業教育に関する授業科目構成と講義
- 授業計画(シラバス・コマシラバス)※
- 効果の分析等の資料
- その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

14 生涯修復師としての社会的責任を担う上で卒後も継続した学習が必要であることを認識するための教育を行っているか

★専門技術(A):自己目標設定・成果を評価する項目、質向上基準

■分類:目標 ■観点:

- チェック項目:生涯学習の意欲醸成に関する例示

75 生涯学習の重要性を現場で活躍する柔道整復師などから聞く機会を設けているか

76 卒後研修等の生涯学習プログラムに在学中から参加する機会を提供しているか

77 「卒後臨床研修制度」をはじめとする生涯学習に対する意欲を醸成するための教育を体系的に行なうよう努めているか

参照資料 ※は必須

- 生涯学習参加に関する文書
- 生涯学習に関する教育プログラム
- その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

16

教育方法について、特色ある取組を行っているか

★専門技術(A)：自己目標設定・成果を評価する項目、質向上基準

分類：目標     観点：成果

チェック項目

82

教育方法に関して特に力を入れている取組があるか

参照資料 ※は必須

- 特色ある教育方法に関する文書
- その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

### 3-8 免許・資格取得の指導体制

小項目	評価の視点・指標	分類 観点
19	柔道整復師国家試験及び認定実技審査のための指導体制はあるか	目標 専門
20	その他の資格取得について、特色ある取組を行っているか	目標 成果

19 柔道整復師国家試験及び認定実技審査のための指導体制はあるか

★専門技術(B):知識・学修成果を評価する項目、基本的基準

■分類:目標 ■観点:専門

□チェック項目

88 柔道整復師国家試験及び認定実技審査のための授業科目、特別講座の開設など指導体制を整備しているか

89 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか

**■参考資料 ※は必須**

- 資格取得指導体制(規程、組織図、議事録)
- 補講、グループ学習指導等の資料
- 卒後の指導体制に関する資料
- その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

**20 他の資格取得について、特色ある取組を行っているか**

★専門技術(A):自己目標設定・成果を評価する項目、質向上基準

**■分類:目標 ■観点:成果**

**□チェック項目**

90 資格の内容、取得の意義について明確にしているか

**■参考資料 ※は必須**

- 資格取得関係科目一覧
- その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

### 3-9 教員・教員組織

小項目	評価の視点・指標	分類 観点
23	教員組織について、特色ある取組を行っているか	目標質

23 教員組織について、特色ある取組を行っているか

★専門技術(A):自己目標設定・成果を評価する項目、質向上基準

■分類:目標 ■観点:質

チェック項目

108 教員組織に関して特に力を入れている取組があるか

■参考資料 ※は必須

教員組織の特色ある取組に関する文書

その他、自己点検・評価報告書に記載した内容を確認できる資料

## 資料3 第三者評価

### 確認と評価の手順

- 自己点検・評価報告書の構成と記述
- 確認、評価の手順
- 第三者評価報告書の記述



### 自己点検・評価報告書の構成と記述

#### I 学校の現況

- ・学校名及び設置者
- ・所在地及び認可年月日
- ・沿革・課程・学科の構成
- ・学生数及び教員数・施設の概要

#### II 各基準の基本方針

- 1～10の順に大項目の総括
- 学校としての基本方針、達成目標、取組内容、背景となる状況などを記述

### III 評価項目(中項目)の分析

●以下の3点についてそれぞれ中項目の自己評価を記述

- ①現状とそのプロセス
- ②特長として強調したい点
- ③今後の課題と取組の方向性

●記述内容を確認する参照資料の名称と番号を記述

①～③の記述要点は……

#### ①現状とそのプロセス

●小項目(評価の視点)の要求事項に関する取組や活動について、

チェック項目が求める活動・事実をもとに参考資料やデータを示して具体的に記述

●小項目の毎に、原則としてチェック項目順に点検・評価結果を記述

(1)小項目(評価の視点)

- ①チェック項目 ②チェック項目

(2)小項目(評価の視点)

- ③チェック項目 ④チェック項目

## ②特長として強調したい点

- 「現状とそのプロセス」に記述した取組や活動の中で、
  - 学校が特に力を入れていること
  - 工夫していること
  - 成果を得ていること
  - 外部から高い評価を得ていること などを記述
- 学校として積極的にアピールしたいことを記述 など

## ③今後の課題と取組の方向性

- 学校が目標や計画などを設定している場合は、その内容と達成に向けた取組や活動について記述
- 「現状とそのプロセス」において、小項目の要求事項を満たしていない(未実施、未対応など)ものがある場合は、それを課題として明記し、今後の取組や活動について記述
- 現状が不十分と捉えている取組や活動がある場合は、改善に向けた取組を記述 など

## 確認、評価の手順 評価の判断

基準・基本・専門	質向上・目標・質・成果
○適合 ⇄ 不適合 × ○ある ⇄ ない × ○している ⇄ していない × ○できている ⇄ できていない × など	○ある ⇄ ない △ ○している ⇄ していない △ ○できている ⇄ できていない △ ○多い ⇄ 少ない △ ○高い ⇄ 低い △ □ 成果 □ 達成具合 □ 程度 □ レベル □ 特色 など

## 確認、評価の手順

「Ⅲ. 評価項目(中項目)の分析」の記述が  
評価基準を満足しているかを確認する

- ①「現状とそのプロセス」の記述が評価基準の要求事項を満足しているかを確認する手順
- ①該当する小項目とそのチェック項目の要求事項を確認する
- ②「現状とそのプロセス」の記述が①を満足しているかを確認する

- ①「現状とそのプロセス」の記述が評価基準の要求事項を満足しているかを確認する手順
- ③満足していないか、不明の場合は、  
●そのことを、「今後の課題と取組の方向性」に明記しているかを確認する  
□明記してあれば：  
　フォローができると評価する→確認済  
□明記してなければ：  
　それを課題として捉え、「今後の課題と取組の方向性」へ追記する→確認済  
□明記してなければ：  
　事実を再確認の上、満足するように記述を訂正する→④へ

- ①「現状とそのプロセス」の記述が評価基準の要求事項を満足しているかを確認する手順
- ④満足している場合は、記述を裏付ける参考資料を確認する
- ⑤記述を裏付ける参考資料の有無を確認する
- ⑥参考資料がない場合は、記述を裏付けるのに必要な参考資料を追加する→⑦へ
- ⑦参考資料がある場合は、参考資料の記述、記録が要求事項を満たしているかを確認する

①「現状とそのプロセス」の記述が評価基準の要求事項を満足しているかを確認する手順

⑧確認できない場合：

- 確認できる参照資料と差替えする→⑦へ
- 差替えができない場合は、第三者評価報告書の「更なる向上を期待する点」に指摘する

⑨確認できた場合：

- 確認ができた中から選択して、「特長として評価する点」に記述する
  - ・工夫された、効果的な取組
  - ・優れた成果を得ている取組
  - ・学校がアピールしている取組など

## 確認、評価の手順

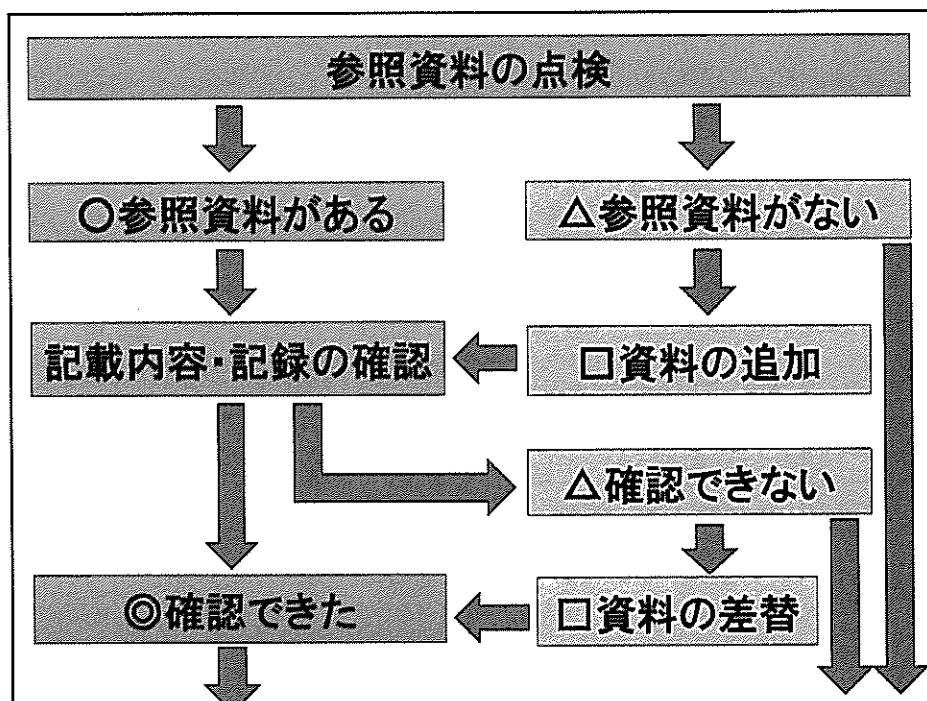
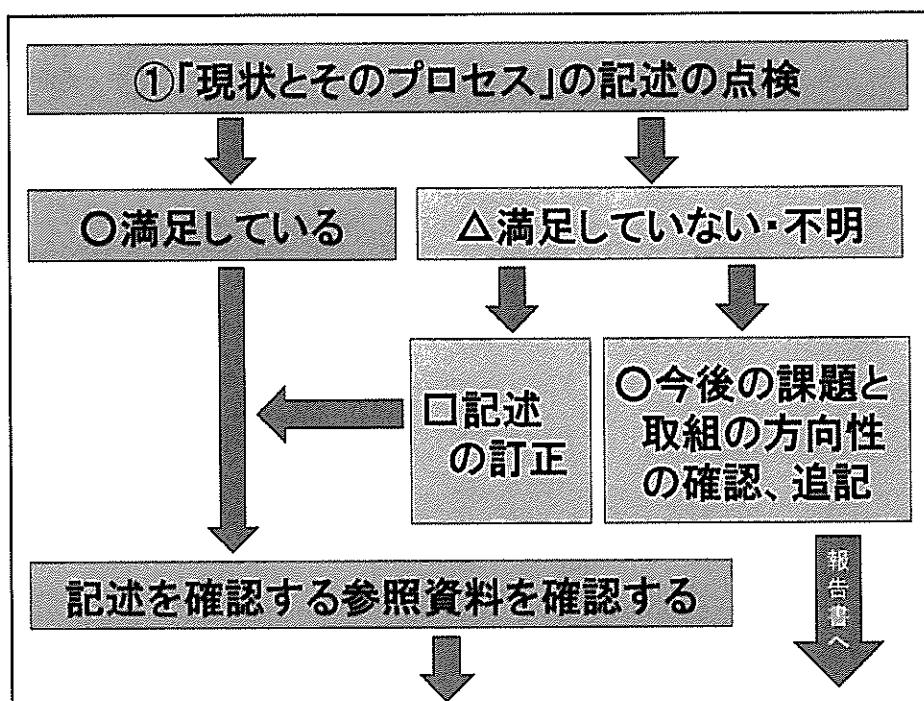
「III.評価項目(中項目)の分析」の記述が評価基準を満足しているかを確認する

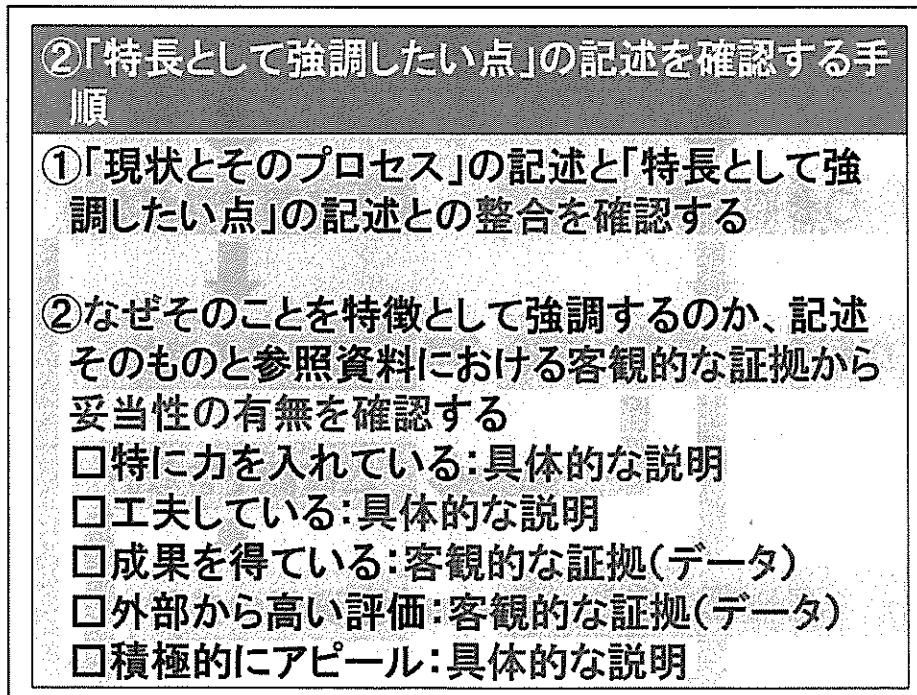
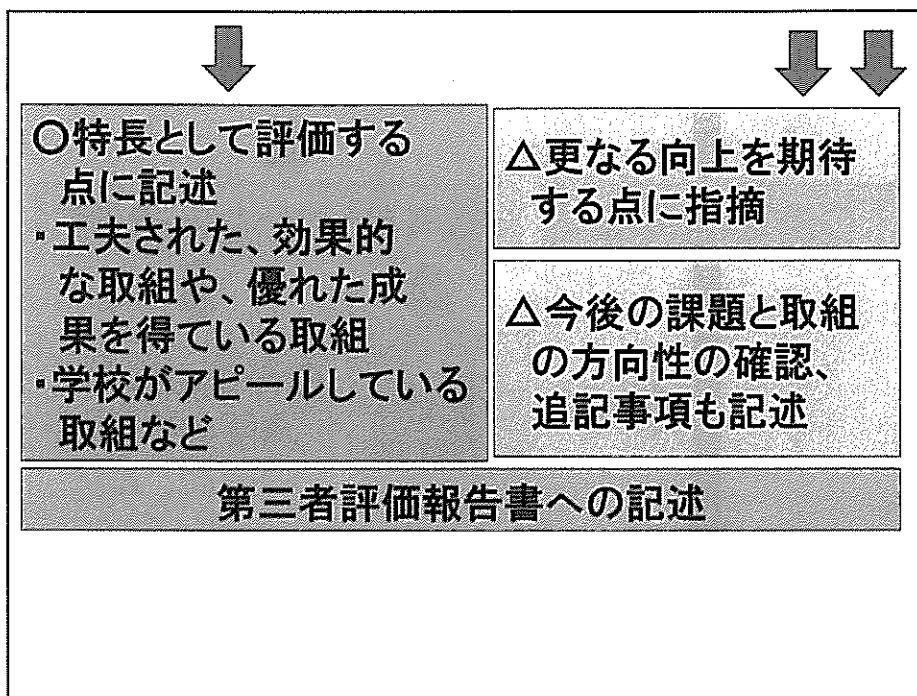
①「現状とそのプロセス」の記述の点検

□小項目の要求事項から確認

□そのチェック項目の要求事項を満足しているかことから確認







**③「今後の課題と取組の方向性」の記述を確認する手順**

**①「現状とそのプロセス」の記述と「今後の課題と取組の方向性」の記述との整合を確認する**

**②学校が目標や計画などを設定している場合：**  
□その内容と達成に向けた取組や活動について具体的に記述しているか

**③「今後の課題と取組の方向性」の記述を確認する手順**

**③小項目の要求事項を満たしていない(未実施、未対応など)ものがある場合：**

□それを課題として明記しているか  
□今後の取組や活動について記述しているか

**④取組や活動の現状が不十分と捉えている場合：**

□それを課題として捉えているか  
□改善に向けた取組や活動について記述しているか